

その「物語」、の物語。

「ペログリ」的複眼思考の味わい vol.148

田中 康夫



たなかやすお ● 56年東京生まれ、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年に衆議院議員に当選、1期務める。『文藝』（河出書房新社）2013年冬季号から17年ぶりに小説の連載を開始。【公式ブログ】<http://www.nippon-dream.com/>



政府は「警戒区域」を一刀両断に指定し、家屋移転の公共事業を促進する気概を

今週の逸品



酔っ払い海老TAMA風 裏メニューにつき価格表示無し

青山学院西門前。硬くて背のない椅子は御世辞にも小体とは言い難き止まり木な殿い。分煙なれどカウンターから紫煙の洗礼も強いが、温性溢れる接客に救われる時空。そーめんチャンプル830円、牛すじの辛い無込

み1180円、琉球麻婆豆腐1200円、アーサーそば780円などなど、品書きは豊富で美味。一重草とも記すアーサーは海藻。オリオンの樽生ビールで始め、ワインを遊ぶと宜しい。

【琉球チャイニーズTAMA】東京都渋谷区渋谷2-3-2 ☎03-3486-5577
営18:00~27:00 無休 <http://tama2007.jp/>

illustration by Hajime Anzai



広島市安佐南区で先頃、長野県南木曾町で先月に発生した土砂災害に關し、「土砂・岩石の急激な流下を防止する為に設ける」砂防ダムが不足していたからだ、この「珍説」が横行しています。

不可解にも日本では、砂防ダムに溜まった土砂の浚渫（しゅんせつ）除去を実施した事例が存在しません。「放置」し続け、土砂が満杯となるや上下流に新たな砂防ダムを建設するのが「砂防工学」の流儀です。と記すや、判つてないと嘲弄する向きが現れるでしょう。呵々。

斯くなる御仁こそ「科学的知見」では浚渫しないのが砂防ダム、と信じて疑わぬ脳天気な心智。満杯であるが故に土石流を誘発する既存施設の浚渫こそ「造るから治す・護る・創る」へと転換する公共事業の在り方。現に国土交通省水管理・国土保全局は「何れも土砂等で満杯だった各砂防ダムを土石流は乗り越えて沢を下った」と文書で「告解」しています。

僅か8%。残りは大規模林道や谷止工と呼ばれる公共事業。日本の森林の45%は間伐が不可欠な戦後造林の針葉樹。2列残して1列伐採の「2残1伐」が急務にも拘らず、未だ半分近くが手付かず。1ha当たり35万円で実施可能な間伐は、その3分の2が人件費。堆砂の浚渫、護岸の補修と並んで森林の整備は、確実に地元雇用を生み出す地域密着型公共事業なのです。知事在任中、森林整備予算を2・5倍に増やし、「小泉改革」で公共事業が削減されて青息吐息だった

た土木・建設業者を対象に「信州きこり講座」と銘打って100時間限の無料講習を実施。保水力が高い広葉樹を植林する針広混交林化を県土全域で促進しました。

お盆休みに帰省した読者諸氏は、山裾や崖下に老人ホーム等の社会福祉施設が存在するのは何故、と疑問を抱いたでしょう。驚く勿れ、嘗て都市計画法の29条及び33条は災害危険区域、地滑り防止区域、急傾斜地崩壊区域での福祉施設、医療施設等の開発行為を認めていたのです。僕のみならず多くの人が法整備を求め、現在の土砂災害防止法が施行されます。

が、警戒区域に指定するのは地元自治体の首長。当該「遊休地」を所有していた建設会社や農業団体は往々にして彼らの支持母体。更には住宅地に於いても区域指定は住民合意が大前提。しがらみが有り過ぎです。道路建設では強制収容も辞さぬ一方で、実に本末転倒。而して現在でも、未指定ならば開発許可も建築許可もスルー状態の不条理。避難勧告云々と自治体を糾弾する前に求められるべきは、当該箇所を全国で一刀両断に指定し、家屋移転の公共事業を促進する政府の気概なのです。

「TAMA」は琉球料理と中国料理が融合する時空。台風&基地銀座の沖繩に於ける国民の生命と財産を如何に護るべきか、想いを巡らすに相応しいかも知れません。